

〈学校教育目標〉  
よく学び、たくましく生きる心豊かな児童の育成  
「元気な子 考える子 やさしい子」

総社市立維新小学校  
令和元年11月11日  
第34号

## 協力、真剣、感動

11月に入り10日が経過しました。青く澄み切った空、刈田の稲の株から少し出ている緑の芽、部分的に少しずつ色付き始めた山々。朝、校門の所から見える風景です。秋の深まりを感じます。

さてそんな中、学芸会の日も次第に近づいてきました。17日の本番に向け、今、児童は一生懸命練習や準備に励んでいます。児童会で決めた学芸会のスローガンは「協力、真剣、感動」です。この3つを目標として頑張ります。そんな児童の頑張る姿を、お誘い合わせの上、どうか見に来てください。多数のご来校をお待ちしています。

## 第2回学校評議員会開催

第2回の学校評議員会は11月5日に開催しました。まずは、全教室を授業参観して回り、児童の様子を把握していただきました。その後、校長室で説明や意見交換を行い、維新幼稚園へと移動していただきました。この間およそ1時間30分でした。

話題となった内容は次のとおりです。

- 7月に実施した五つ星学園のアンケート結果について、学校側からを説明しました。「(学校は)保護者や地域と連携・協力して取り組んでいる」(肯定的回答、保護者100%、地域住民95%)の所で、『保護者同士もさらに連携・協力していく必要がある』との意見も出されました。
- 今後の五つ星学園の園児・児童・生徒の人数の推移をグラフ化したものを学校側から提示し、減少が止まらないことを説明しました。今後の維新小の存続について、様々な意見が聞かれました。(要点のみ)
  - ・やはり学校がないと地域が活性化しない。
  - ・生活力や学力を考えると少人数では子どもがかわいそうになる。統合もやむを得ない。
  - ・五つ星全体でも子どもの人数は少ないので、もっと広い範囲で統廃合を考えるべきだ。
  - ・地域の中心が学校で、地域と協力して子どもを育てるのが一番。統合や廃校などより、義務教育学校として再出発の方がいい。
  - ・できれば住む人を増やしたい。(住宅や工場の誘致もあるが)特産品を作ればいいのか?特産品ができればそれを作りたい人などが集まってくる。
  - ・他地域に出ている人が仕事を辞めて帰ってこれないのは雇用体制にある。一度辞めるとなかなか正規雇用してもらえないので仕事をかえにくい。等々



授業を参観される評議員の皆さん



校長室での学校評議員会の様子

## 紀文工場見学(3年生)

10月31日、昭和小と合同で出発。約2時間の見学でした。紀文総社工場で丁寧に説明や案内をしてくださったのは、何と維新小出身の方。試食もさせて頂き、児童も大満足で帰校しました。



紙キャップをかぶって、通路からちくわができる工程を見学。



チーちく、はんぺん、玉葱天、タコかまなど、いっぱい試食。ごちそうさま。

